

## 高津区おはなしアーカイブ

●本多 正夫 (ほんだ まさお) さん  
昭和6年生まれ 84歳  
川崎市高津区上作延在住



### ◆家族構成

生まれたのはここ、上作延です。ちょうど今住んでいる家からもう1軒向こう、3軒並んだ農家の真ん中に父親の実家がありました。父親は明治15年生まれ、母親は明治30年生まれ、母は上作延の三田家から嫁いできました。姉が3人、私、そして2歳下の妹が1人、男は私だけです。一番上の姉とは10歳離れていましたし、二番目の姉とも9歳離れていましたので姉たちと一緒に遊んだ記憶はありません。

父親は私が8つの時に亡くなりました。ほとんど思い出せないのですが、よく叱られていた気がします。母親は80歳くらいまで生きましたが、厳しい人で、子どもの

頃は手が空いて遊んでいるとすぐに何かしら用事を言いつけられていました。

一人息子だったから、なんとか一人前にしようと思って私には厳しかったのだろうと思います。

### ◆小さい頃の思い出

当時、このあたりは自然豊かで、ほとんどが雑木林でした。道路も狭く、畑はまだ少なかったです。父親が生きていた頃には、牛を飼っていたのをうっすらと覚えています。そのほかには、鶏と豚も飼っていました。豚はその当時「豚屋(ぶたや)」というのがいて、大きくなると買いに来るのですよ。自分たちで食べることはなかったですね。

### ◆小学校の思い出

入学したのは向丘尋常高等小学校。当時、この辺の小学校はその1校しかありませんでした。

私たちの学年は、上作延だけで女が8人、男が8人。1年から6年、その上の高等科の1年と2年、全体で400人くらいだったかな。

学校の授業は「修身」なんていうのもありましたね。算術、国語、体操…。運動は得意でしたよ。勉強は苦手だったけれど、走るのは速かったのですね。



〈向丘小学校の運動会〉

小さい頃の遊びといえばメンコ、コマ、それから凧揚げ。凧は自分たちで作りました。

小学校2年生ぐらいだったかな、自転車を買ってもらいました。中古でしたが、その当方で8円。溝口の「アダチ自転車」という店があってね、そこで買ってもらって、よく乗っていました。溝口の方まで自転車でおつかいを頼まれたこともあったと思います。

小学校の時の遠足は、向ヶ丘遊園地とか、あとは多摩川の向こうの京王閣にも行きました。戦争が激しくなってからは遠足もなくなっちゃったけど。

夏休みにはね、先生の引率で多摩川にも泳ぎに行きました。ちょうど梨が実っている時期で、梨を採って食べていたら、怒られたりしてね。

子どもの足で、学校から歩いて1時間くらいはかかったんじゃないかな。全員じゃなくて、行きたい子だけだったと思うけど、浅いところでは水遊び、少し深いところで泳ぎを覚えてもらいました。

多摩川は先生に連れられて行きましたが、泳ぐのはだいたい平瀬川。平瀬川では釣りをすることもありました。あの頃はウナギ、ナマズ、コイが釣れたかな。夜のうちに、釣り竿を仕掛けておくんですよ。ミミズとか餌になる虫を付けてね。で、翌朝行くと魚がかかっているんだけど、学校にも行かなきゃいけない。なので、学校の帰りに寄って、それを持って帰ったりなんかして。ドジョウも結構取れましたね。

親父がいなかったので、物心ついた頃には、畑仕事を手伝わされていました。うちでは米や麦、野菜はサツマイモや大根、自分ところで食べるものはほとんど作っていました。味噌や醤油もうちで全部作っていましたし。あの頃、魚とか肉とかはあまり食べた記憶がないなあ(笑)。秋は秋刀魚、年の暮れからお正月にかけては塩鮭、そのくらいかな。

買い物はたまに商人が回ってきたくらいで、あとは溝口の「片町(かたまち)」というところへ、何ヶ月に1回くらい、まとめて買いに行っていたようです。歩いて片道30分くらいかかりました。

#### ◆戦争中の思い出

登戸に風船爆弾を作っていた陸軍の工場があり、それを狙ってB29が来ました。空襲で上作延の一部と、下作延の円福寺の周辺が焼夷弾で焼かれ、うちのすぐ下も2階建ての大きな家が焼かれました。ここか

ら100メートルくらい先、坂の下の家が  
一晩中燃えていたのを覚えています。けが  
人はなかったと思いますが…。

戦時中は各家庭で防空壕を掘っていまし  
た。夜中に警報が鳴るとそこに入って、一  
晩中避難していました。防空壕にはお米と  
か食料もちょっと入れて。空襲がひどくな  
ってくると箆笥も防空壕に入れたりしてた  
けど、なかで箆笥がしけっちゃって、糊が  
はがれてバラバラになっちゃったこともあ  
りましたね。

その頃、二番目の姉は、溝口にある「さ  
んしん工場」へ行っていたみたいです。布  
団の綿を打ち直すような工場だったかな。  
一番上の姉は、東京の方へ奉公に出ていま  
した。

私も高等科の1年・2年は、学校へはほ  
とんど行かず、男の子はみな学校から津田  
山にあった日本ヒューム管株式会社の工場  
へ行かされていました。コンクリートの土  
管を造る工場だったかな。家の手伝いは雨  
が降った時だけが休みで。日曜なんてなか  
ったです。

#### ◆学校卒業後

国民学校高等科の2年まで行って、学校  
を出た年に終戦を迎えました。進学はせず、  
家の仕事を手伝いました。

畑で採れた大根を川崎南部市場までリヤ  
カーに積んで売りに行きましたよ。今は青  
首大根が多いけど、あの頃は「オクマル」

と「ナカブト」という2種類を作ってい  
ね。この辺より、川崎方面は朝鮮人が多い  
ので高く売れるっていうので、リヤカーに  
100本〜130本くらい積んで行きましたよ。

困ったことといえば、台風のたびに平瀬  
川が溢れて、水や砂が田んぼに入っちゃう  
ことかな。当時は今みたいにまっすぐな川  
じゃなかったし、改修していなかったから  
堤防も無い。台風がくると水が溢れて、う  
ちの田んぼはちょうどS字のカーブのと  
ころにあってね、水や土砂が入ってしまう。  
台風の後には稲のまわりの土を出したことも  
覚えています。

農業だけではやっぱり収入が少なかった  
し、学校を出たあとは小遣い稼ぎに東京の  
方へ行きました。先輩が東京の土木関係の  
親方のところに連れて行ってきて。あの  
時分で、日当220円くらいだったかな。  
当時はまだ何もわからないから、土方みた  
いな仕事ですよ。土を掘ったり、基礎工  
事が多かったな。

少し大人になると、地元の青年団に入っ  
て秋祭りの素人お芝居にも参加しました。  
お祭りの時、青年団が神社で踊ったり芝居  
をしたりいろんなことをやるんです。私も  
20歳過ぎてから芝居で女役をやったりし  
てね。



〈左から2人目、着物を着ているのが本多氏〉

上作延には神明神社と赤城神社があり、氏子はそれぞれ違うけど、平瀬川から南側の人はだいたい神明神社、向こうのバス通りの方は赤城神社の人が多かったみたい。お祭りが楽しみっていうか。

当時、秋祭りは曜日には関係なく9月25日と決まっていました。神輿を担いで、飲んで、騒いで。お祭りの時期は「祭り歩き」って行ってね、祭りをやっている方々の部落へ夜遊びにも行きました。

家では赤飯と煮物など、ご馳走を家族みんな集まって食べました。うちは親戚がみんな上作延だったから、よそに配ることはなかったけど、この近所では、お祭りの料理を重箱につめて親戚に持っていくという習わしがあったから、「ああ今日はどこそこで祭りだ」って、だいたい分かるんですね。

お祭りに欠かせない日本酒は、この下の

平瀬川の端っこにあった「関本屋」というお店で買いました。自分たちが小さい時も、よく1銭とか2銭とかもらっては買いに行っていたお店です。当時、このあたりで買い物といえば「関本屋」だったな。



〈写真とともに思い出を語る本多氏〉

#### ◆就職そして結婚

自分が好きではじめた鳶の仕事。22歳から、つい4～5年前まで現役でした。



〈20代の本多氏〉

結婚は27歳。家では亭主関白。みんな  
で言いたい放題やっていたら、家の中がま  
とまっていかないから。ちゃんと男が舵を  
取らないとだめですね。

今は畑の仕事が趣味かな。野菜が育つのが  
楽しみで、10種類くらいの野菜を育て  
ています。キャベツ、ダイコン、ブロッコ  
リー、そのほかニンジンとかいろいろ。月  
曜日と水曜日と金曜日、週に3回売店を出  
すと、近所のお客さんが買ってくれるから  
ね。

近くにできた南原小学校の2年生くらい  
かな、毎年畑の見学に来てね、作物とか農  
機具の説明をしてくれなんてね。なんかメ  
モして帰って行くよ。今は小学校も増えた  
からね。年に2回開催されるバザーには、  
うちで採れた野菜を無料を出しています。

(平成27年9月18日取材)